

あけましておめでとうございます。

皆さんがこうして元気に登校してくれて嬉しく思います。

コロナ渦で、これまで当たり前であったことがそうではない、登校できること、授業受けること、そして大好きな部活ができること・・・すべての日常に感謝して生活していきたいものです。

さて今日は、ある人の告別式に参列したお話をします。生光学園幼稚園・小学校で園長・校長をされた藤原スミ先生が1月4日に亡くなりました。昨年度の12月に、人権研修の講師として生光学園中学校にもお来し頂き、人権の大切さを熱くお話ししてくださいました。

先日、阿波町で告別式が執り行われました。寒い中でしたが、たくさんの方々が、藤原先生との最後のお別れに来られていました。38年間に渡る先生の教員生活での教え子の方々もたくさん参列されており、皆さん、目を潤わせ、最後のお見送りを行いました。また、御棺の中で眠るスミ先生は、あふれるばかりの生花に囲まれ、本当にきれいでした。適当な表現ではありませんが、スミ先生らしい“みごとな”そして“あっぱれな”旅立ちでした。

出棺後、帰る車の中で、先生は2つの事を考えました。

1つは「人間の値打ちは（生前中は勿論ですが）その人と離れてみて、別れてみてその真価に気づく。わかる。感じる。」と、いうことです。

2つ目は、内村鑑三さんが後世への最大遺物という本の中で・・・『自分は、財産も大した功績も残すことはできないが、精一杯ひたむきに生きた“生き様”は残せる』と、書かれています。まさにスミ先生は、多くの人材を輩出しそして見事な生き様を我々に財産として残してくれたと感じました。

皆さんは、若いから、死というものに、現実感薄いかもしれませんが。もしかしたら自分だけは死なないんじゃないかと思っている人もいるかもしれません。（先生は若い頃そう思っていました）でも、誰しもいつかはこの世を去る時がやってきます。どうぞ、**自分の命もそして他者の命も、真に大切にしてください**。そして、なかなか難しいことですが、「死」とは何だろうかということも時には考えてみてください。人生の折り返し点を過ぎている先生には、次の言葉の意味がひしひしと痛感できます。「死を考えることは、生を考えること！ 死を意識することは、生を意識すること！」

さあ、59日間の令和2年度3学期が始まりました。

ここにいる全員が、共に、「よかったと思える3学期＝59日間」となる様、1日1日しっかり頑張りましょう。以上で、3学期年頭の学校長の式辞とします。

（藤原スミ先生のご冥福を祈って、黙祷をお願いします。）